

多くの方が住みやすい  
松浦にするために！



# 松浦市

- ・アジフライの聖地

→ふるさと納税の返礼品でも人気。アジフライが目的の観光客もいる。

- ・水産業や製造業が盛ん

→海外労働者の方も多い。

- ・人口減少が進んでいる

→自治体の維持が難しくなる。行政サービスを維持するにはお金が必要。

# 注目した課題と解決策

## 課題：

- ① 住み続けたいくなるまちづくりをするために市の収入アップ
- ② 市内の居住する外国人労働者も住みやすい街づくり

## 解決策：

- ① アジフライ以外にも売れる商品を作り、ふるさと納税などで市の税収を上げる。
- ② 外国人労働者の方にも地域イベントに参加してもらえらるようにする。

# 課題① 住み続けたいくなる街づくりのために市の収入アップ



## プランについて

アジフライソースを松浦の御厨ぶどうを活用して作りたい

- ・ アジフライに次ぐ名物を
- ・ お土産の創出

# もしうまく行ったら、、??

短期的に言うと、、

より多くの人々が松浦の名を耳にする機会が増える  
知名度アップ、松浦市の収入も増える。

長期的に言うと、、

行政サービスの充実に繋がる  
今住んでいる人も暮らしやすくなる  
人口減少が進む松浦の移住者を増やせる

# なぜソースを作りたいのか



- ・ 松浦市の果物を活用したあじフライに合うソースを開発したい

- ・ アジフライをお土産として買う人が少ないのでは？
- ・ 御厨ぶどうが松浦の極みに選ばれているのに存在感が少ないのでは？

- ・ 松浦のお土産、名物の創出
- ・ アジフライに次ぐ松浦の武器として果物の存在感アップ

まっナビで、すぐに行動を起こせるように準備をしておく。  
また、協力会社を見つける。

調べる



果物をメインにしたソース等について調べる。

★ 試作



シャインマスカットを使ったソースの試作を企業とともに重ねて完成させる。

売る



完成したソースを売る。

定着



松浦市の新たなお土産として定着させる。

# 課題②市内の居住する外国人労働者も住みやすい街づくり

増えている外国人労働者と地域住民の交流が不足している

## 市に寄せられている外国人の声

ゴミの出し方がわからない

日本語をもっと学びたい

## 想定される課題

- 生活トラブルの増加（ゴミ出し/騒音/交通マナー等）
- 外国人住民への不信感の高まりや排他的な雰囲気の設定
- 地域行事などに参加しないことによる相互理解の機会の喪失

# 市役所から得られた松浦市の情報と現状

---

- 松浦市は334人の外国人労働者(技能実習生)を抱えている
- 市が主催して提供する地元住民と外国人労働者が触れ合う機会はない
- 行政目線からの課題については住民との距離感がある
- 多言語対応についてはあまり対応ができていないのが現状

# 先行事例調査

---

## • 目的

- 松浦市以外で外国人労働者が増加している地域を調べ、地域住民と外国人労働者がうまく交流を図る方法を学ぶ
- 他の地域と比較することで松浦市の課題と今後の方向性を確かめる

## • 調査対象

- 成功している地域
- 失敗している地域

# 成功している地域と失敗している地域の特徴

---

## 成功している地域（神奈川県愛川町等）

- 行政や地域全体でサポート
- 地域イベント、文化交流など、住民と外国人が接触する機会を設計している
- 日常的に交流する場が用意されている

## 失敗している地域（愛知県豊田市等）

- 企業任せ
- 地域住民と外国人の接点が少なく、お互いの存在が見えない状態が続いている
- ゴミ出し、病院、交通など生活に必要な情報が多言語で提供されていない



街全体が一体となり外国人労働者と地域住民を結ぶ  
体制を整えることが大切になる

# 調川の調創会にインタビュー

- **きっかけ**

- 市役所へのインタビューの中で、調川に多くの外国人労働者がいることがわかった
- 調川のまちづくり運営協議会である調創会が外国人労働者向けのイベントを実施したことが分かったため、それについて調査する

- **目的**

- どのようなイベントを実施して、どんな結果が得られたのかの調査
- 今後も交流の予定があるのかの調査

- **手段**

- 調友会の実施する夏祭りイベントに参加し、調創会執行部の方へインタビュー



# インタビュー結果

鬼火炊での実施内容と参加者	小屋を作って、小屋の中で交流。予定よりも少ない参加者で外国人労働者の参加はなかった。
呼び込みの工夫	インスタや回覧板、企業や商店に声かけと広告紙の設置
今後の交流予定	予定はあるが、より効果的な広報の仕方がわからない
今後の宣伝方法	市報にポスターを挟む 防災無線での放送で宣伝も検討中
調べフェス（町民運動会）	企業に挨拶とポスターの配布 英語版のポスターを配布するのが理想
考えてほしいこと	企業への挨拶のアプローチの仕方 外国人に参加してもらうための工夫 他の交流イベントの企画 町内の役員やイベントに（若い人）の参加意欲を高める

# 今後できること

---

## 1. 調創会との協働

## 2. 行政に向けた提言

→行政が民間や地域コミュニティと外国人労働者をつなげる橋渡しの窓口を担うことがこれからの街づくりを考えていく上で必要になってくると考える

# 企画書の提出

---

- **背景**

- インタビューの際に困っている現状がわかった
- 行政においても制度的支援やイベントが十分に行われていない現状にある

- **目的**

- 民間側に位置する調創会を使って外国人と現地住民の架け橋になるため

# 企画書

## ①ポスター、チラシの配布（English ver.）

→ 9月の町民運動会で早速実施

## ②9月の調川地域の町民運動会の競技の考案

→ 来年度の町民運動会で実施

## ③町民運動会にて東南アジア風ソースの アジフライの提供

→ 来月の町民運動会で早速実施予定  
(三陽食品からも許諾済)

### 企画書

まつナビプロジェクト  
松浦高校2年 久保川 愛子  
mail address : aiko10251216@gmail.com

#### ◎目的

松浦市では外国人労働者の割合が年々増加しており、とりわけ調川地域においてその傾向が顕著である。一方で、市民からは地域との交流不足に対する不安の声が上がっており、行政としても十分な対応が行き届いていないのが現状である。そこで、調創会が主体となって外国人労働者と地域住民との交流の場を設け、相互理解と安心できる地域づくりを推進することを目的とする。

#### ◎背景・課題

松浦市では外国人労働者が年々増加しており、特に調川地域ではその割合が高まっている。地域社会においては、言語や文化の違いから交流の機会に限られ、市民の中には「生活圏に外国人が増えてきたが関わる機会が少ない」「地域の一体感が薄れるのではないか」といった不安の声も出ている。また、行政においても制度的支援やイベント実施が十分に整備されていない状況にある。こうした中で、地域の主体である調創会が率先して外国人労働者と住民との橋渡しを行うことが求められている。

#### ◎企画概要

##### ①ポスター、チラシの配布

制作したポスター、チラシ(English ver.)を紙媒体で企業に掲示してもらう。また外国人労働者が住む社宅などの掲示板に掲載する方法によってアプローチを行う。

##### ②運動会での競技考案

文化交流タイム: 競技の合間に、各国の文化(料理、遊びなど)を紹介する。

##### ③東南アジア風ソースのアジフライ提供

三陽食品さんと協力して、アジフライのソースにバリエーションを持たせる。具体的にはレモングラスチリソースやスイートチリソースなど、ベトナムやフィリピン出身の外国人労働者の方に親しみの深い味付けでアジフライを提供する。

※三陽食品さんからは承諾済み

#### ◎期待される効果

- ・地域住民と外国人労働者との交流の場が設けられるとともに異文化交流の場となる。
- ・調創会が外国人労働者と地域住民との橋渡しの役を担えるようになり今後のつながりを保てることができる。
- ・外国人労働者が街のルールや暮らしの様子について知る機会が設けられる。

#### ◎必要になる予算